



特典③：授業スタンダード (掲示用)



教室の視覚化！「授業スタンダード」掲示用ポスター（データ）

- 子どもが「今、何をすべきか」をいつでも確認できる環境づくり
- 先生が「静かに！」「前を向いて！」と叫ぶ必要を減らすための視覚スタンダード案

1. 授業のOSを安定させる「3つのスタンダード」

教室の前面や目立つ場所に掲示する、**基本行動の基準**です。

項目	具体的なスタンダード（例）	ねらい
聞く（聴く）	「からだ」を話し手に向ける。最後まで「黙って」聞く。	話し手への尊重と、情報の正確な受信。
話す	相手に届く「声の大きさ（レベル）」を選ぶ。	教室全体の静穏な環境の維持。
学びの準備	机の上には「今使う物」だけを出す。	集中力を削ぐノイズを排除する。

2. ヘルプを出しやすくする「自立の仕組み」（例）

「分からない」と誰にも言えずに止まってしまう子を救うための**視覚ルール**です。



ヘルプカード・ルール

- 自分で **5分** 考えても分からない時は、カードを「黄色」にする（または特定のサインを出す）。
- サインが出ている子は、近くの友達に「教えて」と言ってよい。
- 「学習部」の子が、サインが出ている子を優先的にサポートする。学習部の子ができていても限らないので、無理強いはしない。

3. 【AIプロンプト】自分の「軸」に合わせたスタンダード文案作成

先生が大切にしている「キーワード（軸）」を、授業中の具体的な姿に反映させるためのツールです。

【AIへのコピー用プロンプト】

以下の条件に基づき、教室に掲示する【授業スタンダード】の文案を作成してください。

■ 前提条件

- 私のキーワード（軸）：[ここにキーワードを入力：例「判断力」]
- 対象：[例：小学校高学年]

■ 作成のルール

1. 「聴く」「話す」「考える」の3つの場面について、それぞれ2つずつ具体的な行動を示すこと。
2. キーワード（軸）が自然に意識されるような言葉選びにすること。
3. 命令形（～しなさい）ではなく、目指すべき姿（～する・～しよう）という肯定的な表現にすること。
4. 掲示した時にパッと見て分かりやすいよう、短く、リズムの良い言葉にすること。

4. 活用のアドバイス：掲示物は「生き物」です

目標を貼って終わりにしてはいけません。

子どもが意識的な姿を見せた瞬間、または意識的でなくても、目指したい姿を見せた瞬間、

- ・ 「あ、今、『判断力』を発揮したね」

のように、**目標と事実をリンクさせる言葉掛け**をしてください。

目標が「先生がいない時でも、自分たちの行動を支えてくれるガイド」だと認識されたとき、学級の自治は一段階深まります。

先生が「案」「アイデア」としてもっておきつつ、目標作成段階から、子どもたちと一緒に考えていくことが最も望ましいです。